|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 授業科目名 | 英語科教育法Ⅳ | 教員名 | 石濵　博之 |
| Eメールアドレス | hishihama@edu.miyazaki-mic.ac.jp |
| 授業形態 | 演習 | オフィスアワー | ・授業で示す。・メールでも対応します。 |
| 科目番号 | EDU319－1 | 担当形態 | 単独 |
| 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 3・4年前期 |
|  | 卒業要件 | 選択 |
| 科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語） |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） |
| 一般目標 | (1)カリキュラム／シラバス中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。(2)生徒の資質・能力を高める指導中学校及び高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」及び「書くこと」）の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。(3)授業づくり中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。(4)学習評価中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。特に、「話すこと［やり取り・発表］」及び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」（生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法）について理解する。(5)第二言語習得論学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解して授業指導に生かすことができる。 |
| 到達目標 | (1)カリキュラム／シラバス1)中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領について理解している。2)中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科書について理解している。3)学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の３つの資質・能力（以下、「３つの資質・能力」という）とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。4)小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領や教科書等の教材、並びに小・中・高等学校を通した英語教育の在り方の基本について理解している。(2)生徒の資質・能力を高める指導1)聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。2)読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。3)話すこと［やり取り・発表］の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。4)書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。5)複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。6)英語の音声的な特徴に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。7)文字の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。8)語彙、表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。9)文法に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。10)異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。11)教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。12)英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。13)ALT等とのティーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。14)生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指導に生かすことができる。(3)授業づくり1)学習到達目標に基づく授業の組立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。2)学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。(4)学習評価1)観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。2)言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。(5)第二言語習得論1)第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。 |
| 授業の概要 | 中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 | ｢教育実践力を身につけている。｣｢教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。｣を育成する科目として配置している。 |
| 履修条件・注意事項 | 1．問題意識を持って、自ら積極的に授業に参加する。2．ステップ・バイ・ステップで内容を提示するので、指導スキルを身につけていくこと。3．授業に集中すること。4．「英語教育における基礎統計学」の授業では、パソコンを持参してください。 |
| 授業計画 | 第1回：コースの概要説明、参考文献の提示（授業の進め方、予習方法についての説明）第2回：学習指導案（ICT導入の中学校・高等学校外国語細案の作成）（目標(1)-1),2),3),(2)-11),(3)-1),2),(4)-1),2)）第3回：学習指導案（ICT導入の中学校・高等学校外国語細案の作成）作成（目標(1)-1),2),3),(2)-11),(3)-1),2),(4)-1),2)）第4回：模擬授業の実施（ICT導入の中学校・高等学校外国語）授業研究(指導の観点から) （目標(1)-1),2),3),(2)-11),(4)-1),2)）第5回：模擬授業の実施（ICT導入の中学校・高等学校外国語）授業研究(評価の観点から) （目標(1)-1),2),3),(2)-11),(4)-1),2)）第6回：模擬授業の実施（ICT導入のTeam Teaching）授業研究(指導の観点から)（目標(1)-1),2),3),(2)-11),12),13),(4)-1),2)）第7回：模擬授業の実施（ICT導入のTeam Teaching）授業研究(評価の観点から)（目標(1)-1),2),3),(2)-11),12),13),(4)-1),2)）ICT導入の授業第8回：小学校外国語活動、外国語の現状と将来第9回：小学校外国語活動、外国語と中学校英語教育との小中連携第10回：学習指導案（ICT導入の小学校外国語活動指導案の作成）基本事項の確認（目標(1)-3),4),(2)-11),(3)-1),2),(4)-1),2)）第11回：学習指導案（ICT導入の小学校外国語指導案の作成）作成（目標(1)-3),4),(2)-11),(3)-1),2),(4)-1),2)）第12回：英語教育における基礎統計学（１）：学習評価としてデータ分析（*t*検定）第13回：英語科教育における基礎統計学（２）：学習評価としてのデータ分析（一要因分散分析）第14回：英語科教育における基礎統計学（３）：学習評価としてのデータ分析（χ2検定）第15回：授業の総まとめ（授業研究における課題(模擬授業の振返り)定期試験 |
| 学生に対する評価 | 学期末試験(30％)、課題レポート等(30％)、模擬授業（40％）講義全体の三分の一以上の欠席は自動的に評価の対象外となる。 |
| 時間外の学習について | （事前・事後学習として週４時間以上行うこと。）事前学習：1.　事前に指導案の構想を考えておくこと。事後学習：1.　様々な意見や考えを取り入れて、英語指導の方法を見直すこと。2.　配付するプリンティング・マテリィアル等を利用して復習を励行する。3．（教員採用試験に向けての）英語教育に関する専門用語をまとめる。 |
| テキスト | ・授業内でプリントを配布する。・『新学習指導要領にもとづく英語科教育法第３版』望月昭彦編　大修館書店 |
| 参考書・参考資料等 | ・『中学校学習指導要領（平成29年度告示）』文部科学省　東山書房・『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』文部科学省　開隆堂・『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）』文部科学省　東山書房・『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）外国語編　英語編』文部科学省　開隆堂・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　外国語』文部科学省　東洋館出版（2020） |
| オフィスアワー | ･ 月曜日4校時 研究室･ メールでも対応します。 |